

# Letter for Members

## 【コンテンツ】

- 支部学術大会報告 ..... 1
- 専門医研修会報告 ..... 4

## 支部学術大会報告

### ● 東京支部学術大会

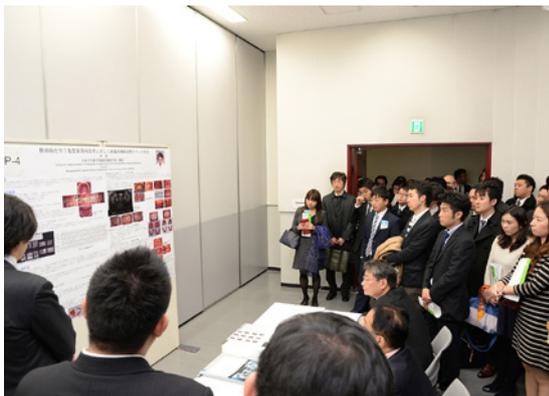
平成 27 年度東京支部総会ならびに学術大会は平成 27 年 11 月 29 日（日）に東京医科歯科大学大学院摂食機能保存学分野 三浦宏之教授大会長のもと東京医科歯科大学鈴木章夫記念講堂にて開催されました。学術大会前日には歯学部特別講堂にて市民フォーラムが開催され「白い歯の最前線」と題して東京医科歯科大学 吉田恵一准教授による最近の様々なメタルフリー修復についての講演がありました。

学術大会では一般口演 25 題と専門医ケースプレゼンテーション 4 題が発表されました。特別講演には日本歯科大学総合診療科臨床教授の本間憲章先生に「メタルフリー歯科時代のインプラントについて」と題して現在のインプラントの基本となっているチタン

のアレルギーについて、その対策としてのセラミックインプラントについてご講演いただきました。また、併催された生涯学習公開セミナーでは東京医科歯科大学臨床教授 松村光明先生より「金属アレルギー患者のメタルフリー修復」と題して東京医科歯科大学歯学部附属病院歯科アレルギー外来の診査、診断法や外来で経験した歯科材料アレルギートラブル、新しいメタルフリー材料の使用法とアレルギー治療についてご講演いただきました。

今年度は一般口演が多かったため過密なスケジュールとなりましたが、395 名の参加会員の皆様のご協力により会も順調に進行し活発な討議がなされました。

(医歯大 吉田恵一)



専門医ケースプレゼンテーション風景



三浦大会長開会の辞

### ●西関東支部・東関東支部学術大会

平成28年1月10日(日)にパシフィコ横浜 アネックスホールにおいて、平成27年度(公社)日本補綴歯科学会西関東支部・東関東支部合同学術大会並びに総会を第14回神奈川県歯科医師会学術大会と共催で、神奈川歯科大学大学院歯学研究科口腔機能修復科学講座咀嚼機能制御補綴学分野 木本克彦を大会長、明海大学機能保存回復学講座歯科補綴学分野 大川周治教授を副大会長として開催いたしました。

今回の合同支部会では、口演発表18演題、ポスター発表1演題、専門医申請ケースプレゼンテーション6演題が発表され、参加者は西関東支部の226名(他支部や非補綴学会員を含む)、東関東支部の124名の合計350名と数多くの先生方のご参加をいただきました。各演題とも参加された先生方の積極的な質疑が行われ、充実した学術大会となりました。

また、併催いたしました生涯学習公開セミナーは、

「震災から学ぶ歯科補綴学」をメインテーマとして、佐々木啓一先生(東北大学大学院歯学研究科口腔システム補綴学分野教授)は「震災直後の状況とその対応」、中久木康一先生(東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科顎顔面外科学分野助教)は「避難所での歯科的アプローチ」、そして槻木恵一先生(神奈川歯科大学大学院歯学研究科研究科長教授)は「震災への備え—災害医療歯科学の推進—」の各テーマで様々な分野の先生が震災に対しての歯科のあるべき姿を興味深く講演をしていただき参加者からも惜しみのない拍手が送られました。

冬の寒さが身に染みる天候でしたが、歯科補綴学を考える場として、そして研究内容についての研鑽の場として、様々な参加者の交流と討議で会場内は熱く過ごせた1日となりました。

(神歯大 星 憲幸)



西関東・東関東支部合同学術大会(集合写真)

### ●関越支部学術大会

平成28年1月16日(土)、ホテルメトロポリタン高崎(群馬県高崎市)において、関越支部 宮下英一郎大会長のもと、平成27年度公益社団法人日本補綴歯科学会関越支部総会・学術大会が開催されました。一般口演13題、専門医ケースプレゼンテーション3題が発表され、活発な質疑応答が行われました。

特別講演には、女性歯科医師の会会長、歯科・林美穂医院院長の林 美穂先生をお招きし、「生体に調和した咬合を求めて～歯科治療が患者の人生を救う!～」と題して、患者の口腔内を一口腔単位で考えるだけでなく、個々の生体における病態を見極め、生体と

の調和をはかりながら“木も見て、森も見る”治療をすることの必要性、筋や顎関節、中枢に調和した咬合を再構築する必要性について、多くの症例を交えながら素晴らしいご講演をしていただきました。

同日に行われた市民フォーラムでは、「認知症と訪問歯科」というテーマで、日本歯科大学新潟病院訪問歯科口腔ケア科科長の白野美和先生にご講演いただき、認知症に対する歯科医療の果たす役割と、認知症患者さんに必要な口腔ケアについて、分かりやすくお話しいただきました。支部専門医研修会では、大会長である関越支部宮下英一郎先生から「スポーツデンティストの役割と将来展望」について、スポーツマウ

スガードの製作法を含めてご講演いただき、東京医科歯科大学大学院スポーツ医歯学分野准教授の上野俊明先生から「アスリートの歯科治療で注意すべきポイント」について、メディカルチェック、アスリートの歯科治療からマウスガードの製作処方にあたり、詳細にご講演いただきました。

今回は、他支部の先生方からのご発表・ご参加も頂き参加者数は90名を越え、合わせて市民フォーラム、支部専門医研修会も行われ、有意義で盛会な学術大会となりました。

(日歯大新潟 水橋 史)



学術大会の様子



特別講演、林先生



## 専門医研修会報告

### ●東京支部専門医研修会

平成28年1月31日(日)に昭和大学歯科病院臨床講堂にて平成27年度公益社団法人日本補綴歯科学会東京支部の専門医研修会を開催致しました。「デジタルデンティストリーの現状と展開」をテーマとして、講師として大阪歯科大学の末瀬教授、岩手医科大学の近藤教授においで頂きました。

末瀬教授のご講演は「CAD/CAM冠の成功への秘訣」と題して、平成26年4月に医療保険に導入されたCAD/CAM冠について、まず、保険導入直後から行ってこられた予後調査の結果についてご紹介頂きました。最新の未発表データでは、予想以上に破折・脱離などのトラブルが多く認められるようで、CAD/CAM冠に適した支台歯形成、適切な接着操作の必要性について、非常に臨床的かつ具体的な解説がありました。

近藤先生からは「デジタルデンティストリーの現状と未来について」と題して特に口腔内スキャナーを用

いたいわゆるデジタル印象の現状について、その精度や臨床有用性を解説して頂きました。また、昨年ドイツで行われたケルン国際デンタルショー(IDS 2015)で展示されていた、インプラントナビゲーションなど新たな技術の紹介も含め、今後の方向性についてもお示しいただきました。

当日は絶好の後楽日和にもかかわらず119名の参加者があり、会場は満席で、両講師の熱のこもったご講演に受講者が熱心に聞き入っている姿が印象的でした。質疑応答でも本学会のデジタル化やメタルレス化を含めた今後の方向性についての活発な質疑応答があり、当日ご参加いただいていた小宮山監事、櫻井理事、水口理事も加わっていただき会員にとって非常に有意義な会となりました。この場をおかりし、ご講演をお引き受け頂いた両先生と参加者の皆様にお礼を申し上げます。

(昭和大 馬場一美)



講演後の質疑応答の場面

### ●関西支部専門医研修会

平成28年1月31日(日)に、大阪歯科大学創立100周年記念館において、平成27年度公益社団法人日本補綴歯科学会関西支部専門医研修会が開催されました。

今回の専門医研修会では「グラスファイバーで補強されたコンポジットレジブリッジに関する基礎と臨床」をテーマに、日本大学歯学部歯科補綴学第III講

座 松村英雄教授および日本歯科大学 新谷明喜教授に講演を御依頼いたしました。

松村教授には「かたまったコンポジットレジンのフレームワークをいかに接着させるか」のタイトルで、「支台歯接着面」、「装着材料の選択」、「支台装置の内面処理」および「コンポジットレジ製補綴装置の予後」に関して御講演を頂きました。新谷教授には「グラスファイバーで補強したコンポジットレジンの臨

床」のタイトルで、「歯科用コンポジットレジン」、「グラスファイバーで補強したコンポジットレジンブリッジ」および「臨床応用への重要な指針」に関して御講演をいただきました。両先生の長年の研究と臨床経験に基づいた貴重な御講演をいただきました。

参加者数は約 170 名となり、それぞれの講演について積極的に意見交換が行われ、盛況の内に会を終えることができました。御尽力いただきました先生方に厚く御礼申し上げます。

(大歯大 向井憲夫)

**【投稿募集】**

*Letter for Members* では、各支部の学術大会報告、日々の研究の報告など、会員の皆さまの投稿をお待ちしております。採否は事前にお知らせいたします。

投稿は、公益社団法人日本補綴歯科学会事務局 ([jpr-edit01@max.odn.ne.jp](mailto:jpr-edit01@max.odn.ne.jp)) まで、メールにてお寄せください。